令和６年度 新潟県公立大学法人評価委員会 第３回県立大学部会
～議事概要～

１　日　時　　令和７年３月 18 日（火）10 時～10 時 30 分

２　会　場　　県庁行政庁舎５階 504 会議室（Ｗｅｂ会議）

３　出席者

（委　　員）　乾部会長、赤松委員、冨浦委員、吉澤委員
（新潟県立大学）　黒田副学長、若杉事務局長　ほか
（設立団体・事務局）　阿部大学・私学振興課長　ほか

４　次　第

(1) 開会
(2) 議事
　第３期中期計画の変更について
(3) 閉会

５　議事概要

［事務局及び大学］
（資料に基づき説明）
［吉澤委員］
　数値指標について、評価の基準になるため詳しいことをお聞きしたが、第２期中期計画策定時以降の取扱いでそのような計算をしているということで説明をいただいたので了解した。
［赤松委員］
　私も質問したが、丁寧に回答いただき、理解した。
［乾部会長］
　志願倍率について、長期的に見れば 18 歳人口の減少の影響も大きくなってくると思うが、新コース設置に当たっては志願者数を増やすという意図もあったかと思うので、7.1 倍から変更する必要もなかったように思うがいかがか。
［黒田副学長］
　第３期中期計画を策定した際に合意した計算式があるため、その計算式に当てはめて機械的に計算し直した結果であり、その他の要因を加味した変更はしていない。それがよいか悪いかは評価委員会のご審議にお任せする。
［吉澤委員］
　乾部会長の意見も理解できるが、そうすると全部を改めて審議しなければならず、従前の計算式で算出した数値ということであるため、その算定方法まで議論する必要はないのではないか。
［乾部会長］
　算式についてはよくわかったが、データサイエンス経済コースを作ったのに

マイナスの影響だけ出ているように見えてしまうため、もう少し別の考え方もあるのではないかと思った。

［赤松委員］

なかなか難しいところだが、人口減少の影響は結構早く来ているように大学にいながら実感しているため、7.1 倍にするというのはリスクがある。

［冨浦委員］

そもそも倍率を高くするということを目標として設定するのかということ自体が評価委員会での議論も必要であり、7.1 倍から 6.9 倍に下げることが問題だという議論をするのかどうかということにも関わる。新コースを作ることによって倍率を高くすることが望ましいのか、そのためにもともと決まっている算式自体を変えるのかということについては、慎重な議論が必要であるため、今回は算式に従ったやり方であれば問題ないのではないか。

［乾部会長］

確かに算式を変えるということになるともう少し慎重な議論が必要かと思うので、今回は変更なしとしたい。